

故 関田寛雄 牧師
「お別れの会」



2022年12月14日 永眠
享年94

川崎朝鮮初級学校 体育館
2023年6月17日(土) 13:00

主催：関田寛雄牧師「お別れの会」実行委員会
協力：川崎朝鮮初級学校・横浜YMCA
渡辺花園・毎日新聞写真映像報道センター

開会挨拶

古谷正仁 (実行委員長)

日本キリスト教団 神奈川教区総会議長・蒔田教会牧師

第1部 追悼礼拝

司式：古谷正仁

奏楽：沢知恵

説教：金性済 (キム・ソンジェ NCC総幹事)

前 奏

賛美歌 主われを愛す

聖 書 イザヤ書55：8-11

祈 禱

説 教 「主の望みを仰ぎつつ」

祈 禱

賛美歌 山路超えて

祝 禱

第2部 お別れの会

1. 故人紹介 (p4)

2. 次代への遺言～私が見た戦争 関田寛雄さん (92)

「少数者生かす社会の実現を」 (提供：毎日新聞)

3. 故人を偲んで

北村慈郎 (船越教会 協力牧師)

佐竹 博 (横浜YMCA 総主事)

三浦知人 (社会福祉法人青丘社 理事長)

李 省展 (イ・ソンジョン、在日大韓基督教川崎教会会員、マイノリティ宣教センター理事長)

牧野信次 (青山学院神学科同窓会 会長)

山田貴夫 (ヘイトスピーチを許さないかわさき市民ネットワーク 代表)

姜 珠淑 (カン・ジュスク、川崎朝鮮初級学校 校長)

李 有彩 (イ・ユッチェ、なか伝道所 会員)

沢 知恵 (歌手)



閉会祈禱 会衆を代表して

禿 準一 (引退教師・農村伝道神学校 理事長)

黙 禱

一 同

聖書 イザヤ書 55章 8-11節

- 8 わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり、わたしの道はあなたたちの道と異なると主は言われる。
 9 天が地を高く超えているようにわたしの道は、あなたたちの道をわたしの思いはあなたたちの思いを、高く超えている。
 10 雨も雪も、ひとたび天から降ればむなく天に戻ることはない。それは大地を潤し、芽を出させ、生い茂らせ、種蒔く人には種を与え、食べる人には糧を与える。
 11 そのように、わたしの口から出るわたしの言葉もむなくは、わたしのもとに戻らない。それはわたしの望むことを成し遂げ／わたしが与えた使命を必ず果たす。

賛美歌

主われを愛す

Jesus loves me, this I know

Anna Bartlett Warner 詞
William B. Bradbury 曲

賛美歌461

D A D D7 G D A

主 わ れ を あ い す 主 は つ よ け れ ば て
 わ が く つ み の の た め さ か え ひ を す て て
 わ が き み イ エ ス よ わ れ を き よ め

5 D A/C# Bm7 D7/A G D/F# Em A D

わ れ よ わ く と も お そ れ は あ ら じ り
 あ(天) め ね き は た ら き を い な さ し め た ま え
 ま よ き は た ら き を い な さ し め た ま え

9 D D7 G D Bm7 Em7 A

わ が 主 イ エ ス わ が 主 イ エ ス

13 D D/F# G G#dim D/A A D

わ が 主 イ エ ス わ れ を あ い す

- 1 主われを愛す、主は強ければ、
われ弱くとも 恐れはあらし。
(くりかえし)
わが主イエス、わが主イエス、
わが主イエス、われを愛す。
- 2 わが罪のため さかえをすてて、
天よりくだり 十字架につけり。
- 3 みくにの門を ひらきてわれを
招きたまえり、いさみて昇らん。
- 4 わが君イエスよ、われをきよめて、
よきはたらきを なさしめたまえ。

466

信頼
山路こえて

[104]

詞：島村道雄、1971-1984

GOLDEN HILL
曲：Zeno Chapin, 1208-1938

や ま し こ え て ひ と り ゆ け ど、
 主 の 手 に す が れ る 身 は や す け し。

- 1 山路こえて ひとりゆけど、
主の手にすがれる 身はやすけし。
- 2 松のあらし、谷のながれ、
みつかいの歌もかくやありなん。
- 3 峯の雪と ころろきよく、
雲なきみ空と むねは澄みぬ。
- 4 みちけわしく ゆくてとおし、
ころろさすかたに いつか着くらん。
- 5 されども主よ、われいのらじ、
旅路のおわりの ちかかれとは。
- 6 日もくれなば、石のまくら
かりねの夢にも み国しのばん。

歩み

■ 同化する軍国少年

1928年、日本メソジスト教会牧師の四男として北九州市に生まれる。幼少期に大阪府吹田市に転居。7歳の時に母親と死別。「イエスさまに守ってもらおう」と受洗した。

小学校時代、キリスト教徒であることを理由に暴行を受け、模範的な「軍国少年」になろうと努めた。

「いつ、キリスト教徒であることがバレるか。それを恐れ、典型的な日本人になろうとした。差別される少数者はそういうふうに、多数者の側に寄り添っていく」、この経験が後に、差別される少数者の気持ちに寄り添う生き方の基となった。

学徒勤労働員では、陸軍衛生材料廠（しょう）大阪支廠で製造された薬品や医療機械を前線に送る作業に従事。軍事教練に励み、率先して「鬼畜米英、頑張るぞ」と同級生を鼓舞した。

■ 生き残ってしまった戦後の再出発

敗戦を迎え、「後に続くを信ず」と言い残して戦場へと消えていった中学校の先輩たちを思う時、「生き残ってしまった」という死者への負い目だけが残った。残りの人生をどう生きるか。答えは父親と同じ、牧師になることだった。「国家は悪魔化する」。それを戦争から学んだ。悪魔化していく国家に対し、「人間らしい国家に」と命がけて説くことが宗教の役割ではないか。それが牧師の道を選んだ動機だった。

■ YMCA運動

牧師になる前、キリスト者としての社会貢献はYMCA運動への参加に始まる。

青山学院大学在学中、横浜YMCAに入会し、職員として少年部を担当。戦後の荒廃下において少年部再建に努めた。また日本YMCA主事養成研修の講師を務め、指導者の育成にも尽力された。70余年にわたるYMCA運動への貢献に対し、横浜YMCA「奉仕の書」が横浜YMCAより、YMCA特別功労賞が日本YMCA同盟より授与された。青山学院大学大学院卒業後、同大学の教諭と教会活動の「二足のわらじ」を履きながら、更にYMCAをはじめ様々な分野で奉仕された。

■ 桜本 — 在日コリアンとの出会い・戦争責任 —

1957年、在日コリアンの集住地区、川崎市桜本の桜本教会に赴任した。桜本には植民地支配や強制連行、そして戦争に翻弄された人たちが多く暮らし、進学や就職など、さまざまな差別に直面していた。

李仁夏牧師（在日大韓川崎教会牧師 2008/6/30召天）との出会いは、桜本での民族差別問題、とりわけ外登法、指紋押捺問題に深く関わりを持つ契機となった。同時にアジア諸国に対する日本の罪責を自覚し、在日コリアンの人権問題に取り組み、李仁夏牧師と共に社会福祉法人青丘社ふれあい館設立（1988年）に尽力された。

晩年はヘイトスピーチを許さないかわさき市民ネットワークの代表に就任し、2019年「川崎市差別のない人権尊重のまちづくり条例」の市議会成立に貢献した。

■ 川崎戸手伝道所 — 堤防を越えて —

ご長男が公害病を患い桜本から離れることを余儀なくされた。当時川崎市で教団の教会のない幸区を移転地に定め、桜本教会から株分けされた4名の信徒とともに幸区戸手町での開拓伝道が始まった。伝道開始にあたり桜本教会での伝道の経験、とりわけ在日大韓川崎教会との交わりをふまえて「戦責告白」（1967年復活節に鈴木正久教団総会議長名で公布された）を基本方針にすること、牧会の標語としては桜本教会時代の「聖書による独立・神と人への奉仕」を継承する事を4名の信徒と共に確認した。

伝道所に併設したこひつじ保育園に多摩川河川敷に生まれ育つ在日の少年（金光燮）が入園してきた。これを契機に河川敷に暮らす在日朝鮮人らとの出会いに導かれ、その後まもなく堤防を越えて35年に及ぶ河川敷（堤外地）の宣教が始まった。

■ 「男はつらいよ」 — 我が愛しき車寅次郎 —

映画「男はつらいよ」をこよなく愛し、山田洋次監督とも親交があった。土曜日の封切りは、気になって説教準備に身が入らず、結局筆を置き映画館に足を運ぶ始末。テレビ放映の日は「これからテレビで寅さん始まりますので是非観てください」と電話で全国の知人に知らせていた。

礼拝説教では度々フーテンの寅さんが登場した。「風の吹くまま、気の向くまま」「それを言っちゃあ、おしめえよ」等、名台詞を交えながら、とらやを教会に例え、寅次郎の嘘のない優しさ、弱さ、その痛みに寄り添いながら語る説教は見事に聖書と共鳴していた。

「男はつらいよ」で説教の出来る牧師であった。最も愛した作品（第17作 寅次郎夕焼け小焼け）

■ 巡回教師

もとより、故人は神学校で説教を教える教師であった。日本聖書神学校をはじめ多くの神学校や大学で説教・牧会学・キリスト教概論を教えられ、全国で活躍するその教え子たちは数知れない。1997年に川崎戸手教会を退き、神奈川教区巡回教師となったが、それ以前から全国の教え子たちからの説教依頼が絶えず、47都道府県の全てから招きを受けた。旅先で愛用する宿はカプセルホテルであった。教え子たちから信頼され尊敬された教師であった。遺品の手帳は、なお訪問予定の教会名で埋まっていた。

■ 平和と共生

アジア太平洋戦争中、日本軍の捕虜となり日本でなくなった英連邦軍人ら（1873人）を追悼する英連邦戦没捕虜追悼礼拝（戦後50年の1995年から）では、毎年追悼の辞を述べられ「自分自身を守るとともに、隣人を守るという課題が与えられている。平和を求め、共に生きるよう励んでまいりましょう」と呼び掛けた。

平和と共生、これが戦後を生き残った関田寛雄の生涯を賭けた祈りであった。

略歴

- 1928年8月18日（生）
日本メソジスト教会牧師 関田寅之助と静枝の四男として北九州市に生まれる。
1963年 政枝（旧姓 渡邊）姉と結婚 3女・2男を授かる。
2022年12月14日 千葉大綱にて召天 享年94

- 学歴・職歴（教師として）
1947・・・関西学院中学部卒業
1954 青山学院大学文学部基督教学科（後に神学科）第2期生として卒業
1957・・・同大学大学院文学研究科聖書神学専攻 終了
1960 同大学文学部基督教学科 専任講師
1962・・・マコーミック神学校卒業（M.A.）
1963 アンダーヴァ・ニュートン神学校卒業（S.T.M.）
1965・・・青山学院大学文学部神学科 助教授
1991～97 同大学文学部一般教育 教授
1997 青山学院大学定年退職、同大学名誉教授

（その他）

南山大学、明治学院大学、立教大学、西南学院大学 （キリスト教概論）
農村伝道神学校、日本聖書神学校 （説教学、説教演習、牧会学）

- 教会（日本基督教団）
1957～1976 桜本教会 牧師
1976～1996 川崎戸手教会 牧師
1996～ 神奈川教区巡回 牧師

■ YMCA関係

- 青山学院高等部ハイYメンバーとして活動に参加
- 1948～ 横浜YMCA入会・職員として少年部担当
戦後の荒廃下にあって少年部再建に努める
- 1953～ 青山学院大学SCA（学生YMCA）メンバーとして活動
- 1994～18 日本YMCA主事養成研修講師（現在のステップⅡ・Ⅲ）
- 1996 日本YMCA基本原則検討委員
- 2019 横浜YMCA「奉仕の書」受賞
- 2020 YMCA特別功労賞受賞

■ その他

社会福祉法人青丘社 理事・後援会会長
川崎市立幸区文化センター 運営委員
ヘイトスピーチを許さないかわさき市民ネットワーク 代表
北村慈郎牧師の処分撤回を求め、ひらかれた合同教会をつくる会 代表
戸手河川敷住民の権利を守る会・支える会 役員

■ 著書・著作

『われらの信仰』、『十戒・主の祈り』、『キリスト教入門 4「教会」』、『聖書解釈と説教』
『「断片」の神学 実践神学の諸問題』、『目はかすまず気力は失せず: 講演・論考・説教』
『あなたはどこにいるのか — 関田寛雄講話集 —』
『説教の神学』（翻訳）、『総説実践神学（2）』（共同著作）
『イエス—十字架につけられた民衆』（共同翻訳）

<YMCA関係 著作等>

「第20回 日本YMCA大会」①メッセージ動画 ⇒ /②「TheYMCA」2021年3月号
「横浜YMCA News」③2019年1月号新春特別対談「平和に導く和解と共生」
「いま、聖書から聴く 22の平和説教集」学生YMCAブックレット（日本YMCA同盟編）
「和解の務めに生きる ～YMCAの課題～」（山梨YMCA講演録）
「寅さんとキリスト教 ～信仰と寅さんの世界」（山梨YMCA講演録）

①②③ 動画・紙面 QRコード ⇒



第2部 故人を偲んで 語り手紹介

▼ 北村慈郎（船越教会協力牧師）

私は、日本基督教団から免職された牧師で教団は認めていませんが、現在実質的に日本基督教団船越教会の牧師をしています。

関田寛雄先生との関係：私は、日本基督教団から免職処分を受けた後、2011年11月末にそれを不当として裁判に訴えました。その時に私の支援会ができて、その支援会の世話人代表を関田寛雄先生が引き受けてくださいました。2014年6月に裁判は、「争訟に値しない」と最高裁で却下されましたが、その後も私の支援会は「…免職撤回を求め、ひらかれた合同教会をつくる会」として継続し、現在に至っております。関田寛雄先生には先生が召されるまで世話人代表を続けていただきました。そのために関田寛雄先生とはこの12年間非常に深い交わりを与えられました。そのこともあって、関田寛雄先生から自分の葬儀は家族葬にするので、私に司式するように頼まれたのだと思います。関田寛雄先生の葬儀は2022年12月20日に、埋葬式は2023年5月3日に執り行いました。

▼ 佐竹博（横浜YMCA総主事）

関田先生は、私たちYMCA職員の先輩です。戦後すぐに、横浜YMCA職員となり、少年部という中高生の放課後クラブのようないわゆる「ボーイズ」の指導者を務めました。その後、牧師となった後は、全国YMCA職員のトップリーダーを養成する主事養成研修の講師を務められました。青年期の関田スタッフとともに活動した約80名の少年たち、牧師となったのちの関田先生の指導を受けた数百名のYMCA職員を代表して、YMCAでの関田先生の働きをお話しさせていただきます。

▼ 三浦知人（社会福祉法人青丘社理事長）

社会福祉法人青丘社理事長。関田先生は、青丘社を創設期より支え続け、亡くなる直前まで、後援会長として、経営を支える人の善意をつなぐ活動の中核を努めていただきました。私は大学生時代に青丘社の地域活動に関わるようになり、50年近くの時が流れました。設立当初は、あらゆる社会保障制度に国籍条項が当然のようにあり、子どもたちの社会には「朝鮮人！朝鮮へ帰れ！」という差別発言が横行する状況でした。設立当初の担い手は、関東地域の朝鮮人と日本人の大学生が集まって、子ども会活動や夜の中学生の学習活動を行いながら、自治体や学校への働きかけを担っていました。そんな中で、関田先生の存在は私たち若い実践する者にとって、大きな支えであり、差別をなくす当事者の訴えをしっかりと補完し、新しい社会へと誘う力を与えてくれました。その後も、青丘社の理事として事業運営にかかわり続けるとともに、地域活動に参加する総意のまとめ役を果たしてくれました。

▼ 李省展（イ・ソンジョン、在日大韓基督教川崎教会会員、マイノリティ宣教センター理事長）

関田寛雄先生と私のかかわりは、それぞれ60年以上前から始まりました。私の父・故 李仁夏牧師が川崎教会に赴任してからがその始まりです。当時は日本と韓国・朝鮮の間には国交がなく、学齢期に達した韓国・朝鮮人は公立学校に入学するには日本人の保証人が必要とされる時代でした。父母が当時、桜本教会で牧会をされていた先生に依頼をし、私の保証人となってくださいました。それ以来、先生には人生の節目、節目でお世話になり、いまでは、先生は私の「人生の保証人」のように感じております。

先生は、全国キリスト教学校人権教育協議会の会長として20年以上携わってくださり、多くの関係者が毎夏に開催される人権セミナーでの先生の力強いメッセージに励まされてきました。私は、大阪の梅花女学園の教員として、また恵泉女学園大学の教員として、運営委員として立ち上げの頃から、この運動にかかわってきており、先生に励まされてきた教員の一人です。

川崎教会員としては、特に金健牧師召天の後、牧師不在の期間には度々先生を講壇にお招きすることができました。寅さんにまつわる、メッセージを楽しみにしてきた一人です。本日は先生を追悼する恵にあずかれたことに感謝しております。

▼ 牧野信次（引退教師・青山学院神学科同窓会会長・元鶴川北教会、上星川教会牧師）

「関田寛雄先生との出会い」

私は1958年降誕日に美竹教会（東京・渋谷）で浅野順一牧師の司式で受洗し、関田先生とは同門の好誼で、特に1963年に青山学院大学神学科に編入し実践神学の講義・演習で大変良い指導を受け、川崎の桜本教会、後に河川敷の川崎戸手伝道所（当時）を訪ね、寝泊まりしました。在日大韓基督教会の李仁夏牧師とも親しく交わる機会を与えられ、関田・李両先生から「キリストの他自由・独立」「主にある友情」（「共助会」の精神）を証しされました。1971～3年に渡り渡した期間に、「鶴川集會」の独立したばかりの小さな群れの伝道牧会（後に鶴川北教会（町田市）となる）を私に代わって依頼し、教会形成の良い礎を造って頂きました。神学科廃科問題で1970年代に神学科基督教学会委員また同窓会委員として私は木田献一先生や関田先生といわば苦楽を共にし、「第二の敗戦体験」を味わわれました。同窓会の務めを先生のご遺志を継いで担う所存です。

▼ 山田貴夫（ヘイトスピーチを許さないかわさき市民ネットワーク代表）

「関田寛雄先生の後を継いで」

1970年、日立製作所から就職差別を受けた在日韓国人青年との偶然の出会いから、彼を支援する在日大韓基督教会川崎教会と出会い、故・李仁夏牧師を通じて桜本教会の関田寛雄牧師と出会う。その後私は川崎市職員として働きながら青丘社の地域活動に関わり、国籍条項による行政差別や指紋捺捺拒否などの民族差別撤廃運動、さらには、ヘイトスピーチ、ヘイトクライムとの闘いに関田牧師と共に関わってきた。関田先生は88歳の時にヘイトスピーチを許さないかわさき市民NWの代表に就任され、学習会には千葉県大網白里市から駆け付けていただき、帰りは二人で一杯飲んで、その後、蒲田の定宿にお見送りしたことが懐かしい思い出です。2022年の年賀状には「青丘社・みんなの家は人権の館であれ」と書かれていました。

▼ 姜珠淑 (カン・ジュスク、川崎朝鮮初級学校 校長)

川崎朝鮮初級学校校長の姜珠淑です。

関田寛雄先生とは、朝鮮学校交流ツアー (トプロツアー) での講演をお願いしたことをきっかけに知り合いました。先生は、「出会う・学ぶ・共に」をテーマに朝鮮学校のありのままを知ることについて、また民族教育の大切さについてやさしく強く語って下さいました。

在日コリアン3世の私が民族学校の教員をしていく中で在日同胞は勿論、多くの日本の方々が朝鮮学校を取り巻く様々な問題について自分達の問題として取り組んで支援して下さることに勇気を頂くことが多くあります。そしてそれは関田先生の共生の文化への取り組みにより広まったと感じています。

私自身、これからも先生の共生の取り組みを心に刻み実践していきたいと思っています。

先生、これまで本当にありがとうございました。

▼ 李有彩 (イユッチェ、なか伝道所 会員)

「関田牧師との出会い」 (ことぶき「なか」だより) より

40歳の時、川崎の戸手に住んでいた夫との結婚で日本にきました。生まれた子どもはどうしても本名で育てたいと願っていましたが、保育園に入れる時になって迷いました。「戸手の朝鮮部落に住んでいる」と言ったら断れるに違いないと近所の教会の保育園の前まで行ったは戻ってしまい何度も同じことを繰り返していました。

不安を抱えながらやっと入って、園長先生と言う女性 (後で関田夫人だったとわかりました) と向き合いました。意を決して「朝鮮部落に住んでいる」と言いますと、先生は「わたしたちも桜本に住んでいましたから在日の方々をよく知っています」と言う答えでした。「中山光雄」という日本名で通わしたいと言うと、金光燮 (キムカンスプ) という本名が良いですよと言います。私は心の中で「きれいな事を行っている、わたしたちの気持ち分かるものか」と思っていました。先生は、「では名前を二つ書いておきましょう」ということで、手続きをすませ、4月から通い始めて1週間くらい後、一人の日本人の男性が家を訪ねてきました。それが関田牧師だったのです。私は「日本人が朝鮮人の家になぜ？」と驚きました。関田牧師は、自分が責任を持つから本名で来てほしいと言うのです。一緒にいた父親も、「日本では韓国人は本名で商売ができない」と言って反対し、私も突っぱねました。すると関田牧師は「実は中山君と呼んでも自分が呼ばれたとわからず、返事ができないんです」と言われました。私は頭を一撃されたような気がしました。それから本名で通園させることにしました。(続く)

続きは右のQRコードよりご覧ください。



▼ 沢知恵 (歌手)

1971年川崎市桜本生まれ。父は李仁夏先生の影響などにより戦後初めての日本人留学生として韓国に行った沢止彦。母は『朝鮮民謡選』などを訳編した金素雲の娘、金纓。二人はソウルの延世大学で出会い、結婚して正彦が最初に伝道師として赴任したのが、関田寛雄先生が主任担任牧師だった日本キリスト教団桜本教会。日本、韓国、アメリカで育ち、1991年、東京藝術大学音楽学部楽理科在学中に歌手デビュー。最新作『雨二モマケズ』含め28枚のアルバムを発表。1998年には戦後初めて韓国政府の許可を得て日本語でうたい、日本レコード大賞アジア音楽賞受賞。2001年からハンセン病療養所大島青松園でコンサート。2014年岡山県に移住し、大島青松園の教会を引き継ぐ。2021年岡山大学大学院教育学研究科修了。新刊は岩波ブックレット『うたに刻まれたハンセン病隔離の歴史-園歌はうたう』。

公式サイト<https://comoesta.co.jp>

▼ 禿準一 (引退教師、農村伝道神学校 理事長)

「関田寛雄先生追悼」

・初めて先生のお名前を知ったのは1960年代、私の牧会した本多記念教会で、青山学院大学の関田ゼミの学生が話す関田先生に強烈な印象を受けた。先生の逸話、貧乏物語が、学生よりも私自身が励まされた。1970年代のある年、教団の社会委員会の全国募金の配布先に桜本保育園に送付した。唐突だったので関田先生から電話をいただいた。後年先生から直接伺った話。阿部義宗牧師(元青山学院長)をとうしてのアメリカのメソジスト教会婦人会からの奨学金に助けられた。色々な神学校の学生がいた(私もその一人だった)。

・「川崎・鶴見地区」に地区の同労の牧師としての先生と親しい交りをいただけたことが感謝です。かけがえのないときでした。召される少し前の11月20日に、生田教会の礼拝と研修会を先生が担って下さいました。

・北村慈郎牧師の日本キリスト教団の教師職の剥奪の違法を訴え復帰を願ってその責任者を務めてくださり、「北村慈郎牧師の教団復帰が来るまでは死ねない」が口癖でした。11月の20日にも私に声を大きくしていました。

・神学教師としての先生への感謝です。私の関係する農村伝道神学校では長く教えていただきました。

お知らせ

- ・「お別れの会」の会計報告は川崎戸手教会のHPでご報告させていただきます。
- ・余剰金は、会場を提供いただいた川崎朝鮮初級学校の新校舎建築資金にお届け致します。
- ・本日の「お別れの会」は録画されており、川崎戸手教会のHPからご覧いただけます。

予告

NHKラジオ第2 6/18 (日) 8:30、6/25 (日) 18:30

宗教の時間「この最後の者にも」

内容紹介：昨年12月に逝去した牧師の関田寛雄さんの話に改めて耳を傾ける。

思い出の写真



桜本教会前 家族と 左 政枝夫人



青山学院SCA研修会 1958年 山中YMCA



ヨルダン寮の提供者 金萬守アボジ (中央)



川崎戸手伝道所 開設当初



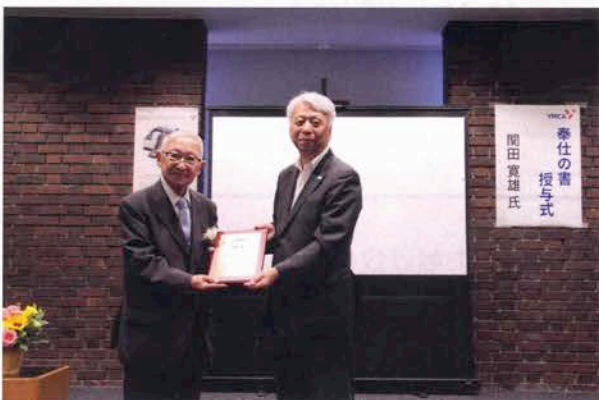
寅さん追悼記念 1996.8



川崎戸手教会退任 1997.4 ヨルダン寮



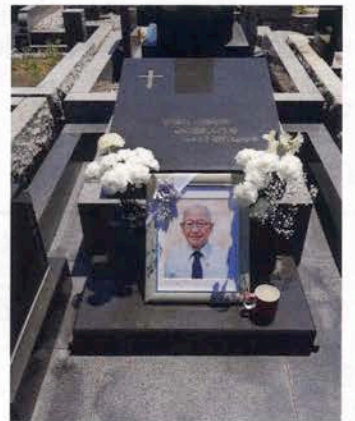
条例制定を求める署名を川崎市に提出 2018.11



横浜YMCA「奉仕の書」授与式 2019.6



英連邦戦没捕虜追悼礼拝 2022.8.3



墓地：緑ヶ丘霊園 107区5側15番